

説教余滴、グーテンベルク聖書、コイナーギリシャ語、2017年10月、

1517年11月萬聖節の夜、ヴィッテンベルク城教会の扉に張り出されたマルティン・ルターの95か条の提題は、書き写され、印刷され、その意見が素早く、広く伝えられました。教皇庁の贖宥券(免罪符)販売は、聖書に照らして正しいことか否か討論しましょう、という趣旨です。こうして、活版印刷はルネサンス(文芸復興)、宗教改革、啓蒙時代、科学革命の発展に寄与し、自らの言葉で考え、決断する近代人を生み出すことになりました。

この時代の教会は、ルネサンス教皇の時代。とりわけ、アレハンドロ6世の名が思い出されます。ルターは、このボルジア家出身の教皇の開明的な思考、生活ぶりに期待しますが、厳しく対立することになりました。

これよりだいぶ前の事ですが、1455年に初めて旧約・新約聖書(ラテン語版)つまり『グーテンベルク聖書』を印刷しています。この聖書は美しく技術的にも高品質だと賞賛されています。

グーテンベルク聖書、**Gutenberg Bible** は、15世紀にドイツのヨハネス・グーテンベルクが活版印刷技術を用いて印刷した西洋初の印刷聖書です。これは、当時もっとも広く流通していたラテン語聖書「ヴルガータ」をテキストとしています。ほとんどのページが42行の行組みであることから「四十二行聖書(42-line Bible、42B)」とも呼ばれ、枢機卿ジュール・マザランのコレクションから発見された歴史的経緯から「マザラン聖書(the Mazarin Bible)」とも呼ばれています。羊皮紙に印刷されたものと紙に印刷されたものがあり、180部が印刷されたと考えられていますが、現時点で存在が確認されているのは、不完全なものも含めて48部です。日本では1987年に丸善が購入したものを慶應義塾大学が保存しています。